

市民病院だより

病気の子どもをみる時に気をつけること

小児科 医師 安藤万里子あんどう まりこ

①乳幼児は会話が十分でないので、見た目による状態の把握が大切です。

ぐったりしていないか、興味を示すか、遊んでいるか、泣き方はどうか、息苦しそうではないか、顔色が青白くないかなどに注意して観察をしましょう。

②代表的な症状への対応

1) 発熱

3カ月未満児の発熱、ぐったりして意識がはつきりしない時、嘔吐が激しい時はすぐに受診が必要です。

熱が高くても元気や食欲がある時は、あまり心配ないですが、脱水に気をつけながら上手に解熱剤を使って様子をみましょう。

2) 下痢

下痢の回数が多くても食欲が

あり、水分が取れて機嫌が良いときは、あまり心配ないです。脱水の心配があるときは、受診しましょう。糖分や塩分の含まれたもので水分を補給しましょう。

感染性のものが多いので、手洗いをしっかり行い二次感染に注意しましょう。

3) 嘔吐

吐き気が治まってから、少量ずつこまめに水分を取りましょう。それでも嘔吐が続くときは、緊急疾患や脱水の心配がありますので受診しましょう。

4) 喘鳴

顔色が悪かったり、息が早くきつそうな時は、すぐに受診しましょう。

5) 発疹

治療が必要なものもありますので、原因が分からない時は受診しましょう。

6) けいれん

突然、白目をむいて手足をかく突つ張り、全身を震わせます。ひきつけた時は、あわてずに体を横に寝かせ、服をゆるめてあげましょう。

熱性けいれんである場合がほとんどですが、怖い病気も紛れていますので、受診しましょう。

③注意すべき疾患

腸重積

1歳前後の赤ちゃんで、腸が腸の中に入り込んでしまう病気です。

腹痛のため突然激しく泣いたり治まったりを、交互に繰り返します。そのうち、嘔吐がみられるようになり、繰り返します。さらに、血便がみられるようになります。疑わしければ、すぐに受診しましょう。

急性虫垂炎

俗にいう、「もうちょう」。はじめはみぞおちの辺りを痛がりますが、次第に右下腹部に移動し、吐き気、微熱を伴うことが多くあります。

頭部外傷

頭を打った後すぐに泣いて意識もすっかりしている時はひとまず安心ですが、くり返し吐いたり、名前を呼んでもぼーっとしたり、うつろな目をしていたり、手足の動きがおかしい時は、頭蓋内出血の可能性もありますので、すぐに脳外科のある医療機関を受診しましょう。

髄膜炎

高熱に頭痛や嘔吐のくり返しを伴い、けいれんを起こすこともあります。顔色が悪く、水分も取れずぐったりしてきます。命に関わることもある重症疾患です。

④子どもは大人のミニチュアではありません。

同じ病気にかかっても、大人の場合がそのまま子どもに当てはまるわけではありません。子どもは免疫力が不十分で、急な発症や、経過も早かったり、重症になりやすかったりします。心配な症状のときは、早めに受診してください。

診療時間変更のお知らせ

内科診療時間が水曜日の午後のみ14時30分開始となります

詳細は、市民病院ホームページや電話にてご確認ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>